

名古屋大学名誉教授

山下 博史 先生

昭和 47 年卒業(第 31 回)



教職員学生と歩んだ伝熱・燃焼研究の 38 年

私は 1977 年 4 月に助手に採用されて以来、38 年間の永きにわたり、名古屋大学工学研究科機械系教室には大変お世話になり、学生時代も含めると半世紀近く在籍致しました。

その間、伝熱・燃焼工学の分野で教育・研究に携わることができました。これもひとえに機械系教室の皆様、特に所属した研究室で一緒に学び、考え、躓きながらも歩み続けていただいた教職員および学生たちのおかげです。私が在籍中に卒業した学生の数は、大学院生 208 名、卒業研究生 308 名になりました。先日の最終講義では、本稿と同じ題目で、38 年間の研究を 90 分で話させていただきましたが、多くの卒業生が駆けつけてくれました。

研究では、伝熱工学と燃焼工学の様々な課題を取り上げ、学生たち一人一人にできるだけ自由に選ばせることを心がけました。毎週のセミナーや研究打ち合わせでは、思い通りの結果でないことを悔んでいる彼らを「苦勞して得た成果をありのままに信じよう」と励まししながら、一緒にその中に含まれる真実を探し、次のステップを考えるのが楽しみでした。

この 38 年間、本当に多くの学生諸君と好きな研究に打ち込めて、幸せな日々を過ごさせていただきましたが、応用をあまり気にせずに、自分が興味を抱く「現象の物理」の解明にしか取り組んできませんでした。結果として、多額の研究資金を得ることができず、大学にこの面では貢献できなかつたと思いますし、教室全体や同窓会「東山会」の運営にはあまり貢献できず、申し訳なく思っています。また、一緒に歩んでくれた教職員学生には実験設備などで負担を掛けることになったと思います。

私の学生時代には大学紛争があり、産学協同反対や大学の自治がスローガンの一つでした。さすがに産学協同は非現実的でしたが、大学が特定の企業のためにあるのではないという理念は今でも大切かとは思っています。また、大学の自治に関しては当然のこととして、教員になってからもいろんな面で国からの束縛もあま

りなく自由な時代でした。法人化以来、大学も財政的な資金面で縛りが強くなり、権限が本部・総長・理事会に集中するようになっており、自由な教育・研究に取り組むことや、自由な考えを社会に発信することが困難な社会情勢になってきていることが懸念されます。最近では大学でも君が代斉唱が話題になっているようです。このような時代においても、機械系教室の皆様および東山会の会員の皆様がますますご活躍、ご発展されんことを心から祈念しています。

本当に永い間、大変お世話になりました。